

日本雪氷学会における男女共同参画への認識度調査

Inquiry survey for gender equality at Japanese society of snow and ice

紺屋 恵子 [1]; 森 淳子 [1]; 伊東 靖彦 [2]; 末吉 哲雄 [1]; 坂井 亜規子 [3]; 原田 鉦一郎 [4]; 八久保 晶弘 [5]

Keiko Konya[1]; Junko Mori[1]; Yasuhiko Ito[2]; Tetsuo Sueyoshi[1]; Akiko Sakai[3]; Koichiro Harada[4]; Akihiro Hachikubo[5]

[1] 北大・低温研; [2] 土木研; [3] 名大・環境; [4] 宮城大; [5] 北見工大・未利用エネルギー研究センター

[1] ILTS, Hokkaido Univ.; [2] none; [3] Env., Nagoya Univ; [4] none; [5] New Energy Resources Research Center, Kitami Institute of Technology

日本雪氷学会では2006年12月～2007年1月にかけて、男女共同参画に関する意識調査をアンケート形式で行った。アンケートは選択式+記述式で基本的な質問をする簡易アンケートと、詳細な意見を記入する詳細アンケートからなり、簡易アンケートを回答後に任意で詳細アンケートにも回答できる仕組みになっている。アンケートはオンライン、無記名による。アンケートの告知については学会のメーリングリストを利用した。日本雪氷学会は会員数1023名、うち女性は36名(2006年9月25日現在)の比較的小規模の学会である。アンケート依頼メールを受け取った人数は803名おり、回答率は約1割だった。回答者の12%が女性であり、学会員全体での女性の割合(3.5%)と比較すると、このアンケートに対する女性の意識の高さがうかがえる。

昨秋の雪氷学会全国大会前に託児所の設置を検討する話が出た直後だったこともあり、託児所の設置を求める意見が少なからず挙げられた。その一方で、男女共同参画の意味を問う意見や問題点は何かと問う回答も寄せられた。様々な意見のあることを認識し、今後の活動に活かしていきたい。